

WINDS CAFE 263 in 原宿

「鉄道ピアノ」 音楽帳

後藤國彦（ピアノ）・後藤三郎（歌・お話）

2018年11月18日（日）午後5時開演
カーサ・モーツアルト <https://casamoz.org>
WINDS CAFE（代表：川村龍俊） <http://tatsutoshi.my.coocan.jp/Up.html>

1. ハンス=クリスチャン・ロンビ

デンマーク鉄道開通記念「コペンハーゲン蒸気機関車ギャロップ」(1847)

デンマーク初の鉄道開通は1847年6月26日、国王クリスチヤン8世も式典に臨席しました。この作品はその際に演奏されたのでしょう。作曲者は当地有数の音楽家で「北国の（ヨハン・）シュトラウス」と呼ばされました。のどかな駅の光景、準備を整えた列車が発進、徐々に蒸気圧を上げ、緩やかな起伏の田園地帯を駆け抜けます。風を切る音が聴こえています。しかし、次の駅！ブレーキを掛けた止まらなければなりません。

2. カール・ツェルニー

「鉄道変奏曲」op. 431～シュトラウス1世のワルツ「鉄道の愉しみ」(1837)による (ca 1840)

オーストリア初の鉄道開通(1837)記念曲、シュトラウス1世の「鉄道の愉しみ」を、ピアノ練習曲で有名なツェルニーが華やかな変奏曲に仕立てました。大胆な出だしは鉄道の衝撃と新時代の喜び（ウィーン会議から20余年）を素直に表現しています。その後、ウィーン軽音楽らしい浮き浮きした気分となり、やがて3拍子になってシュトラウスのワルツが、まずは原曲のままで奏でられ、次に鮮やかな作曲技法で4通りに変奏されます。さらに2拍子の「フィナーレ（終曲）」で、当時の大演奏家にふさわしい指の技巧を開陳します。

3. シャルル=ヴァランタン・アルカン

「鉄道エチュード」op. 27 (1844)

フランスでは1832年の鉄道開通当初から、TGV（フランス版新幹線）やコンコルド（超音速旅客機）まで繋がる、独特の「速度の合理的追求」の姿勢が感じられます。しかし1830年、1848年と革命が続き政情不安で、鉄道の延伸には苦しみます。アルカンの楽曲は21世紀の現在に至るまで、世界の歴史（鉄道史と音楽史）の中で最も傑出した鉄道音楽作品だと思います。機関車の牽引力、列車の疾走感、車窓風景のスピード感を、清冽な音楽語法で活写しています。

4. スコット・ジョプリン

ミズーリ=カンザス=テキサス鉄道のための「クラッシュ大衝突行進曲」(1896)

ラグタイムの巨匠ジョプリンですが、本作当時は無名で、しかも黒人の作曲家が認められにくい時代でした。曲名は、2台の蒸気機関車を故意に正面衝突させる大掛かりな見世物に由来します。このクラッシュ（興行主の名前です）の催しには大勢の見物人が押しかけ、衝突の近くに居た観客に破片が飛んで死傷者が出てしまいました。これをジョプリンは臨場感あふれる描写音楽で表現しました。なお、アメリカは万事において国有化が苦手（建国精神と関係があるのでしょう）、鉄道も民営なので、計画的発展と保守管理が困難です。個人的な（個人主義的な！）乗り物である乗用車の普及とともに、鉄道は斜陽化せざるを得ませんでした。

5. ルイージ・デンツア（詞：ジュゼッペ・トゥルコ）

「フニクリ・フニクラ」(1880)（歌：後藤三郎）

イタリア、ナポリ近郊のヴェスヴィオ山（紀元79年の噴火の火碎流でポンペイを埋没させた山）に登山鉄道（伊：フニコラーレ）が開設され（1880）、その宣伝として作られた曲で、世界初のコマーシャル・ソングと言われます。フニコラーレ自体は1944年の噴火で破壊されました。歌は愛唱され続けています。

[戦後復興期～高度成長期の鉄道事業・日本企業の経営方針] (後藤三郎/ 聞き手:後藤國彦)

6. ウラディーミル・デシェヴォフ

「線路」op. 16 (1926)

20世紀。第一次大戦後。時代が変わりました。最たるもののがソヴィエト=ロシアでしょう。1917年の革命から10年ほどは、文化的にも自由が謳歌され、前衛的な作品が多く生まれます。本作はグレインジャーより無機質に、重工業製品としての鉄道を描いています。しかし同時に、ソヴィエトという国家建設のドラマを不気味な予感とともに描いた音楽にも聴こえます。ロシア最初の公共鉄道は1837年。広大な国土、もちろん鉄道の延伸は必須、1903年にはついにウラジオストクに至ります。ソ連邦成立後は各地の鉄道整備、さらに電化計画に忙殺されることになります。

7. アブラム・チェイシンズ

「ラッシュアワー・イン・香港」(1926)

チェイシンズはニューヨーク生まれのアメリカ人、本作は「3つの中国風の小品」の第3曲で、通勤時間の香港の混雑した様子を鮮やかに描写しています。香港では1888年にピークトラム（ケーブルカー）、1904年に沿岸部の鉄道が開業しました。私は1980年代にアメリカのピアニスト、シューラ・チエルカスキの演奏でこの作品に接し、いつか弾いてみたいと長らく思っていました。

(後藤國彦 mkgoto@wing.ocn.ne.jp)